

院内がん登録における

2018年登録症例からの多重がんルール表の補足説明－造血器腫瘍

国立がん研究センターがん対策情報センター
がん登録センター院内がん登録室

I. はじめに

1. 多重がんルール表（以下、ルール表）は、「頭頸部」「肺」「大腸」「乳房」「腎」「腎盂・尿管・膀胱・その他の尿路系」「中枢神経系・脊髄神経根－良性及び性状不詳」「中枢神経系・末梢神経－悪性」「皮膚悪性黒色腫」「それ以外の部位」「造血器腫瘍」がある。
2. 本説明書では、このうち「造血器腫瘍」の使用方法について説明する。
3. このルール表は、新たに認められた造血器腫瘍において、その組織型が単一あるいは複数である場合に※1、院内がん登録上、それ(ら)を単発として扱うか、多重として扱うかを判断するために用いる。

※1 医師が、後に認めた組織型に対し過去に診断された造血器腫瘍の「再発」あるいは「二次性浸潤性病変」と判断した場合であっても、本ルール表を用い、院内がん登録上その腫瘍を単発と扱うか多重と扱うかを決定すること。

4. このルール表は、2018年登録症例から採用する※2。
※2 ただし、2018年1月1日よりも前に何らかの造血器腫瘍が診断されており、2018年1月1日以降に新たな造血器腫瘍が診断された場合、その新たな造血器腫瘍に対して本ルールを用いて単発か多重かを判断すること。つまり、2018年1月1日以降に診断された新たな造血器腫瘍が、ルール表によって単発と判断された場合は2018年1月1日よりも前に診断された腫瘍と同一原発と考え登録対象外となり、多重と判断された場合は新規の造血器腫瘍として扱い、登録対象となる。

II. 造血器腫瘍多重がんルールの構成

1. 各ルールが記載されている「本表」と、本表に合わせて用いる資料 A)～D) がある。これら資料は、本表の各ルール判定時に指定された資料のみ用いること。
(使用方法はIV. 資料の使い方を参照)
A) 造血器腫瘍検索サイト－多重がん判定（本表ルール M7, M15 でのみ使用）
B) 造血器腫瘍検索サイト－転化組織型の検索（本表ルール M8～M13 でのみ使用）
⇒ URL : <https://jhcr-cs.ganjoho.jp/hemdb/>

- C) 「造血器腫瘍データベース」(本表ルール M7~M13, M15 でのみ使用)
⇒「別表 1」として「本表」とともに配布
- D) 「造血器腫瘍多重がんルール M7 における NOS とその特異的な組織型の組合せ表」
(本表ルール M7 でのみ使用)
⇒「別表 2」として「本表」とともに配布

Ⅲ. ルール表の使用法

1. 「本表」中に、各ルール (M1, M2…) がある。実際に登録しようとしている症例が各ルールの内容に該当するかどうかを、M1 から順番に検討していくこと。また、各ルールを検討する際には、必ず右備考欄も確認すること。
2. 実際の症例が各ルール (M1, M2, …) に該当するかどうかを判断したのち、該当する場合には“はい”に進んで単発あるいは多重の判定をし、該当しない場合には“いいえ”に進み、次のルールに該当するかどうかを判断していくこと。
3. 決して、M1、M2…の順番を飛ばして他のルールを当てはめないこと。
4. 本表の各ルールの左 1 列目には“腫瘍の組織型数”を表す矢印「不明」、「単一」、「複数」がある。これは、各ルール (M1, M2…) が「不明」「単一」「複数」のうちいずれかに属することを意味する。例えば、ルール M2 は腫瘍の組織型数「単一」に属する。この意味は、病理学的標本にて腫瘍の組織型数がひとつである症例において適用が検討されるルール、という意味である。また、「複数」に属するルールは、単発/多重の判定対象となる組織型が複数である、という意味である(ただし、必ず M1 から順に検討していくこと)。
5. 本表各ルールの左 2 列目に、“用いる資料”列がある。ここでは、II-2 で示した資料 A) ~D) のうち、各ルールの「はい」「いいえ」の判定時に必要となる資料を記載している。(資料の使い方はⅣを参照)。
6. M7 では、1 つ目に診断された組織型が NOS で、2 つ目に診断された組織型がその特異的な組織型であるかどうかを判断する必要があり、その判断のため資料 D) を用いる。さらに、2 つの腫瘍の組織型が単発(同一原発)か多重(異なる原発)かを、資料 A) または C) を用いて判定し、最終的に M7 で“はい”となるかどうかを判断する。
7. M15 では、2 つの腫瘍の組織型が単発(同一原発)か多重(異なる原発)かを、資料 A) または C) を用いて判定する。
8. M8~M13 では、「慢性腫瘍」、「急性腫瘍」、「転化」という言葉が使用されている。これらは、以下のことを指す。
 - ・慢性腫瘍：長期的な経過をたどる、徐々に進行・増悪する腫瘍
 - ・急性腫瘍：短期的な経過をたどる、急速に進行・増悪する腫瘍
 - ・転化(transform)：転化とは、慢性腫瘍から急性腫瘍へと変化することを指す。

例) “疾患 A が疾患 B に転化する または 疾患 B は疾患 A から転化する (*Disease A transforms to Disease B* または *Disease B transforms from Disease A*)”とは、疾患 A が疾患 B へと変化することを表し、疾患 A (慢性腫瘍) と疾患 B (急性腫瘍) は転化の関係にある。

9. M8～M13 では、複数の腫瘍の組織型が互いに“転化”の関係にあるかどうかを判断する必要がある。その判断には、資料 B) または C) を用いる (資料の使い方はIVを参照)。
10. 一連の判定作業によって「単発」とされた場合：判定対象とした組織型が一つであればその組織型が登録対象となり、判定対象とした組織型が複数であればその複数の組織型のうちの一つの組織型が登録対象となる。どの組織型を登録するかは、“決定”列または“備考”列の記載を参照し決定すること。
11. 形態コードを登録する際や資料 A) ～D) を用いる際、ICD-O 形態コードが必要となる。形態コードが分からないときは「国際疾病分類腫瘍学 (NCC 監修) ICD-O」(いわゆる紫本) を用い、診断病名から ICD-O 形態コードを検索する。不明の場合は、**IV. 資料の使い方 (5)** を参照のこと。

IV. 資料の使い方 (1)

■ 資料 A) 造血器腫瘍検索サイトー多重がん判定

・ <https://jhcr-cs.ganjoho.jp/hemdb/> にアクセスし、下図の、赤枠で囲った領域が資料②である。

- ・ これは、2つの腫瘍の組織型が同一原発（つまり単発）であるかどうかを判定する。
- ・ M7 と M15 においてのみ使用する。

本ツールを使用する前に必ず造血器腫瘍多重がんルール本表を上から順に確認し、本表にて本ツールを用いるよう指示があるときのみ使用してください。
(使用上の注意点は[こちら](#))

対象年 : 2019

多重がん判定

①、②に形態コードを入力してください。

① 形態コードを入力 + ② 形態コードを入力 ⇒

転化組織型の検索

③に形態コードを入力してください。

③ 形態コードを入力 の 転化前 転化後 の組織型を 表示

※結果は別ウィンドウで表示されます。

・ 対象年とは、単発か多重かを判定したい腫瘍が診断された年を示す（この多重がんルールは2018年からの運用であるため、2018年以降が対象年となる）。

・ 多重がん判定サイト①と②にICD-O-3形態コードを入力し、“⇒”をクリックする。ここで、入力するコードは数字4桁または数字4桁+『/3』で入力する。

・ 「単発」または「多重」と判定される。

・ 造血器腫瘍データベースに存在しない形態コードを入力した場合、“**入力された形態コードは存在しません。**”とのメッセージがでる。

・ 形態コードが分からない場合、IV. 資料の使い方 (5) を参照のこと。

IV. 資料の使い方 (2)

■ 資料 B) 造血器腫瘍検索サイトー転化組織型の検索

・ <https://jhcr-cs.ganjoho.jp/hemdb/> にアクセスし、下図の、赤枠で囲った領域が資料③である。

- ・ これは、2つの腫瘍の組織型が互いに転化の関係にあるかどうかを判定する。
- ・ 必ず、M8～M13 においてのみ使用する。

本ツールを使用する前に必ず造血器腫瘍多重がんルール本表を上から順に確認し、本表にて本ツールを用いるよう指示があるときのみ使用してください。
(使用上の注意点はこちら)

対象年： 2019

多重がん判定

⇒

①、②に形態コードを入力してください。

① 形態コードを入力 + ② 形態コードを入力 ⇒

転化組織型の検索

③に形態コードを入力してください。

③ 形態コードを入力 の ● 転化前 の組織型を 表示

○ 転化後

※結果は別ウィンドウで表示されます。

・ 対象年とは、単発か多重かを判定したい腫瘍が診断された年を示す（この多重がんルールは 2018 年からの運用であるため、対象年は 2018 年以降となる）。

1) ある組織型の腫瘍（急性腫瘍）の、転化前組織型（慢性腫瘍）を検索したいとき

- ・ 転化組織型の検索サイト③に、急性腫瘍の組織型の ICD-O-3 形態コード（数字 4 桁または数字 4 桁 + 『/3』）を入力する。
- ・ “●転化前”を選択し、“表示” をクリックする。
- ・ ③で入力した組織型の腫瘍（急性腫瘍）の転化前組織型（慢性腫瘍）が存在する場合は、別ウィンドウで表示される（下図赤枠；例として③に 9671 を入力したときの結果画面）。

形態コード[9671/3] 転化前検索		
入力情報		
形態コード	英語名	日本語名
9671	Lymphoplasmacytic lymphoma	悪性リンパ腫, リンパ球形質細胞性
転化前情報		
形態コード	英語名	日本語名
9675	Malignant lymphoma, mixed small and large cell, diffuse	悪性リンパ腫, 小細胞及び大細胞混合型, びまん性

・上図では、形態コード 9671(Lymphoplasmacytic lymphoma, 悪性リンパ腫, リンパ球形質細胞性)の腫瘍(ここでは急性腫瘍)が、形態コード 9675 (Malignant lymphoma, mixed small and large cell, diffuse; 悪性リンパ腫, 小細胞及び大細胞混合型, びまん性)の腫瘍(慢性腫瘍)から転化する関係であることが分かる(赤枠)。

・③で入力した組織型の腫瘍に対して、転化前の腫瘍が存在しない場合、“**転化前の形態は存在しません。**”と表示される。

2) ある組織型の腫瘍(慢性腫瘍)の、転化後組織型(急性腫瘍)を検索したいとき

・転化組織型の検索サイト③に、慢性腫瘍の組織型の ICD-O-3 形態コード(数字4桁または数字4桁+『/3』)を入力する。

・“**●転化後**”を選択し、“**表示▶**”をクリックする。

・③で入力した組織型(慢性腫瘍)の転化後組織型(急性腫瘍)が存在する場合、別ウインドウで表示される(下図赤枠)。

形態コード[9671/3] 転化後検索		
入力情報		
形態コード	英語名	日本語名
9671	Lymphoplasmacytic lymphoma	悪性リンパ腫, リンパ球形質細胞性
転化後情報		
形態コード	英語名	日本語名
9650	Classic Hodgkin lymphoma	ホジキンリンパ腫, NOS
9651	Lymphocyte-rich classic Hodgkin lymphoma	ホジキンリンパ腫, 高リンパ球型
9652	Mixed cellularity classic Hodgkin lymphoma	ホジキンリンパ腫, 混合細胞型, NOS
9653	Lymphocyte-depleted classic Hodgkin lymphoma	ホジキンリンパ腫, リンパ球減少型, NOS
9655	Hodgkin lymphoma, lymphocyte depletion, reticular	ホジキンリンパ腫, リンパ球減少型, 細網性
9659	Nodular lymphocyte predominant Hodgkin lymphoma	ホジキンリンパ腫, 結節性リンパ球優勢型
9663	Nodular sclerosis classic Hodgkin lymphoma	ホジキンリンパ腫, 結節硬化型, NOS
9680	Diffuse large B-cell lymphoma, NOS	悪性リンパ腫, 大細胞性B細胞型, びまん性, NOS

・上図では、形態コード 9671(Lymphoplasmacytic lymphoma, 悪性リンパ腫, リンパ球形質細胞性)の腫瘍（ここでは慢性腫瘍）が、形態コード 9650, 9651, …（上図）の急性腫瘍に転化する関係であることがわかる（赤枠）。

・③で入力した組織型の腫瘍に対して、転化後の腫瘍が存在しない場合、“**転化後の形態は存在しません。**”と表示される。

《注意》

なお、本造血管腫瘍検索サイトに存在しない形態コードを入力した場合、“**入力された形態コードは存在しません。**”とのメッセージがでる。その場合、コードを再確認すること。

・形態コードが分からない場合、**IV. 資料の使い方 (5)** を参照のこと。

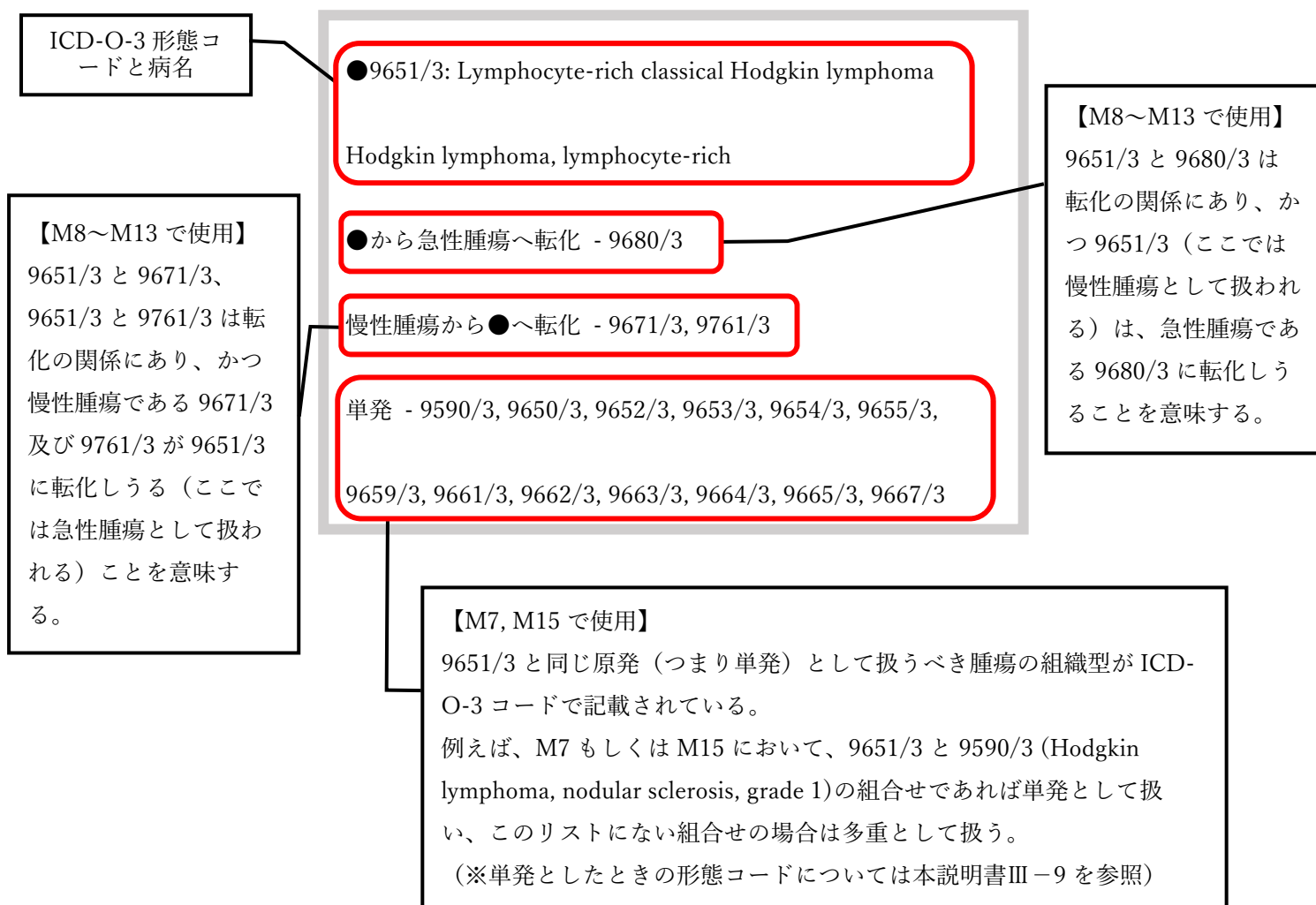
IV. 資料の使い方 (3)

■ 資料 C) 「造血器腫瘍データベース」(別表 1)

- ・この別表 1 は、M7～M13 及び M15 で用いる。
- ・ただし M7, M15 では資料 A) 「造血器腫瘍検索サイトー多重がん判定」を、M8～M13 では資料 B) 「造血器腫瘍検索サイトー転化組織型の検索」を用いてもよい。
- ・表の見方は下図を参照のこと。

表の見方

(別表 1、1 ページ目、左列中段“●9651/3: Lymphocyte-rich classical Hodgkin lymphoma”を用いて説明)



- ・形態コードが分からない場合、IV. 資料の使い方 (5) を参照のこと。

IV. 資料の使い方 (4)

■ 資料 D) 「造血器腫瘍多重がんルール M7 における NOS とその特異的な組織型の組合せ表」(別表 2)

- ・この別表 2 は、M7 においてのみ使用する。
- ・M7 では、1 つ目に診断された腫瘍が NOS で 2 つ目に診断された腫瘍がその特異的な組織型であり、かつ資料 A または C で”単発”と判定されたときに”はい”となる。
- ・この表は、診断された両腫瘍の組織型が、M7 において NOS とその特異的な組織型に該当する組合せかどうかを示す表である。
- ・この表では、ICD-O-3 における第一選択用語を記載しているが、それらの同義語や同等語もその第一選択用語と同じように扱うこと。
- ・それ以外の表中にない組織型の組合せは、M7 における NOS とその特異的な組織型の組合せには該当しないと考え、M8 以降に進むこと。

表の見方

(別表 2、1 ページ目の表を用いて説明、一部省略)

一回目に診断された組織型		二回目に診断された組織型		一回目がNOSで、二回目がその特異的な組織型に該当	備考欄
形態コード	名称	形態コード	名称		
9590/3	悪性リンパ腫, NOS	9591/3	悪性リンパ腫, 非ホジキン, NOS	○	
		9596/3	複合ホジキン及び非ホジキンリンパ腫	○	
		9597/3	皮膚原発濾胞中心リンパ腫	○	
		9599/3	B細胞リンパ腫, NOS		
		9678/3	原発性滲出性リンパ腫		
		9679/3	縦隔(胸腺)大細胞性B細胞リンパ腫		
		9680/3	悪性リンパ腫, 大細胞性B細胞型, びまん性, NOS	○	
		9684/3	悪性リンパ腫, 大細胞性B細胞型, びまん性, 免疫芽球型, NOS	○	
		9687/3	パーキットリンパ腫, NOS	○	

1 つ目 (一回目) に診断された腫瘍が、悪性リンパ腫, NOS(9590/3)…①

2 つ目 (二回目) に診断された腫瘍が、悪性リンパ腫, 大細胞性 B 細胞型, びまん性, NOS(9680/3)…②

①と②の組合せは「○」であるため、これらは NOS とその特異的な組織型の組合せに該当する。

例)

2018 年 10月に診断された腫瘍の組織型が①「悪性リンパ腫, NOS」(9590/3) で、2019 年 3月に診断された腫瘍の組織型が②「悪性リンパ腫, 大細胞性 B 細胞型, びまん性, NOS」(9680/3) だった。

上記表によると、①と②の組合せは、初回に診断された腫瘍が NOS (①) で、二度目に診断された腫瘍がその特異的な組織型 (②) に該当する。

さらにこれら組合せについて資料 A) または資料 C) で”単発”と判定されることから、M7 で”はい”となる。

IV. 資料の使い方 (5)

■ 以下の場合、SEER 造血器腫瘍データベースサイトが役立つため、使用法を説明する。

- ✓ 医師の診断した病名はあるが「国際疾病分類腫瘍学 (NCC 監修) ICD-O」に記載されていない造血器腫瘍病名であり、「国際疾病分類腫瘍学 (NCC 監修) ICD-O」における病名と ICD-O-3 形態コードが分からないとき
- ✓ 資料①～③を用いた際に表記された英語病名があるが、この病名が「国際疾病分類腫瘍学 (NCC 監修) ICD-O」では何という病名かを調べたいとき

・医師が記載した診断病名や資料①～③を用いる際、形態コードは「国際疾病分類腫瘍学 (NCC 監修) ICD-O」(いわゆる紫本)を用いて把握する。


・しかし、時に「国際疾病分類腫瘍学 (NCC 監修) ICD-O」に記載のない造血器腫瘍病名がみられることがある。

・これは、同一疾患であっても国際疾病分類に基づいた病名と WHO 分類等における病名が異なっていることが原因と考えられる(なお、資料①～③で用いた英語病名は米国 SEER 資料を基に作成しており、WHO 分類上の用語が使われている)。

・このような場合、国際疾病分類にない英語病名から、それに対応する国際疾病分類上の病名や ICD-O-3 形態コードを調べる必要があるが、その際は、米国 SEER 造血器腫瘍データベースサイト(下記)を用いた検索が役立つ。

<検索方法>

1. <https://seer.cancer.gov/seertools/hemelymph/> にアクセス
2. "Search" box に、診断名(英語)を入力し"Search"をクリックする(下図)

診断病名(英語)を入力し、右の"Search"をクリック	Search 
------------------------------	--

3. 疾患名候補が列挙されるので、その中から最も確からしい疾患名を選択しクリック
4. 選択した疾患に関する詳細情報ページに移る。その詳細ページの"ICD-O-3 Morphology"の項に、国際疾病分類に基づく病名と ICD-O-3 形態コードが記載されている。

<<引用>>

Ruhl J, Adamo M, Dickie L, Negoita S. (May 2018). Hematopoietic and Lymphoid Neoplasm Coding Manual. National Cancer Institute, Bethesda, MD 20850-9765.